

# 奈弓連だより

通巻 195号

平成 30 年 5 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 野尻賢司 山本悦子

## 住吉大社全国弓道大会

**学生男子団体の部で天理大学(西浦、上野、中尾選手)が優勝、一般団体女子の部で松澤、揚田、松村選手のチームが3位入賞**

第 67 住吉大社全国弓道大会が 5 月 1 日に住吉大社の特設射場に於いて開催されました。昨年同様、学生の部、一般の部で奈良勢が活躍しました。奈良県からの上位入賞者は次のとおりです。

### 学生男子団体の部 優勝

西浦 臣、上野 椋平、中尾 進次郎 (天理大学)

### 一般女子団体の部 3 位

松澤 和実、揚田 よう子、松村 由喜子

### 学生男子個人の部 3 位 西浦 臣 (天理大学)

### 学生女子個人の部

2 位 古城 文深 (天理大学)

4 位 荒井 優花 (天理大学)

### 一般女子個人の部 2 位 揚田 よう子

(事務局)

### 西浦、上野、中尾選手 (天理大学) の喜びの声 :

優勝することが出来、嬉しく思います。練習において、私達は、4人でグループを作り、一人の射を残りの3人が見て、フィードバックを与えるという練習方法を取っていますが、このような練習の成果が優勝に繋がったと思います。これからも精進していきたく思います。

### 古城選手 (天理大学) の喜びの声 :

遠の大会での入賞は初めてです。遠の場がないので馬術部の練習場を借りて前日に練習しただけだったので、うれしい気持ちでいっぱいです。押手を真っすぐ、勝手を大きく離すことを心掛けました。

### 松澤、揚田、松村選手の喜びの声 :

私達のチームは2013年から変わらぬメンバーで出場を続け、今年、念願の3位入賞を果たしました。なかなか結果が出ず、悔しい思いもしましたが、その分今年の入賞は大変嬉しいものになりました。来年は一つ上を目指しがんばります。

### 揚田選手の喜びの声 :

当日の体調不良が功を奏し、無用に力むことなく、的に向かうことができました。「すみよっさん」のご加護のもと、今後も Teppen 目指して精進します。

## 昇段おめでとうございます

京都市勧業館「みやこめッセ」で開催された【京都】定期中央審査会において、次の方が昇段されました。

5月5日 六段合格者 赤松 順次 (郡山支部)

おめでとうございます。

(事務局)



一般女子団体の部で第3位に入賞した左から松村、揚田、松澤の各選手

## ならシニア元気フェスタ弓道大会

**団体はEチーム(馬場・西・山本・尾沢・徳田選手)  
個人男子は赤松選手、個人女子は坂選手が優勝**

平成 30 年度ならシニア元気フェスタ弓道大会兼ねりんピックとやま大会奈良県代表選考会が 5 月 12 日(土曜日) 橿原公苑弓道場において、60 歳以上を対象に開催されました。今回は団体 12 組、個人参加も含め総勢 77 名の弓道人が参集しました。シニア層の大会としてすっかり定着し、県連の競技会にはあまり参加されない方でも本大会を楽しみにしている方々が

年々増えてきてうれしい限りです。

素晴らしい快晴の下、第一体育館での総合開会式の  
のち、弓道場で開会式に続き、西中 正会長の矢渡し  
(第一介添:平田和豊錬士五段、第二介添:加藤順三錬  
士五段)が粛々で行われ、競技会がスタートしました。  
団体競技は5人チームのねりんピックの競技形式で  
行われました。ねりんピックの弓道チームの編成  
は、5名の中に70歳以上の選手が1名以上、女性  
1名以上を含むことになっています。

競技スタート当初はペースがつかめずチームの行  
射時間がオーバーしがちでしたが、次第に間合いが合  
ってきて、整然としかも真剣で熱のこもった大会にな  
りました。本年の大会参加者の最高齢者は奈良支部の  
87歳の佐藤知章選手でした。シニアの皆さま、今後  
ますます元気に弓道で健康維持を図ってください。  
競技結果は次の通りです。

団体競技:各自4射×2回、同中の場合チームの年齢  
合計が大きい方が上位

個人競技:同上、同中の場合、年齢の高い方が上位

#### 団体戦 各自4射×2回

- 優勝 Eチーム19中(馬場雄一、西敬、  
山本悦子、尾沢茂、徳田四郎)
- 2位 Aチーム19中(中川亨、相賀登志子、  
太田保信、高木政彦、増田勝蔵)
- 3位 Nチーム17中(宮脇紀行、斎藤文男、  
清水美千代、松浦敏弘、赤松順次)

個人男子 優勝 赤松順次 7中  
2位 徳田史郎 6中  
3位 高木政彦 6中

個人女子 優勝 坂美千代 5中  
2位 野尻祥枝 4中  
3位 明崎静代 4中



最前列 団体戦優勝のEチーム、2列目 2位のAチ  
ーム、3列目 3位のNチームの選手達。



前列左から 個人女子で3位、2位、優勝の各選手。後列  
左から個人男子で3位、2位、優勝の各選手。

#### ねりんピックとやま大会県代表チーム

ねりんピック県代表チームは候補3チームの中より  
選考委員によって次のチームが選ばれました。

宮脇紀行・斎藤文男・清水美千代・松浦敏弘・  
赤松順次 (郡山支部)

本年のねりんピックとやま大会弓道競技は11月3  
日から6日まで富山県射水市で開催されます。大会ま  
で約半年間、さらに技とチームワークの調和向上に磨  
きをかけ、本番で大いに活躍してきていただきたいと  
思います。

(シニア部 西尾信行)

#### 奈良県高校弓道選手権大会

男子総合:堀内大輝選手(畝傍)

女子総合:木村知永選手(西の京)が優勝

奈良県高校弓道選手権大会が4月22日に橿原公苑弓  
道場で行われました。参加人数は男子87名、女子86  
名。競技は、近的8射・遠的8射・合計16射で行わ  
れました。

結果は次のとおりです。

#### 男子

##### 近的の部

- 1位 松田遼大(郡山) 8中
  - 2位 堀内大輝(畝傍) 7中
  - 3位 藤岡晋平(平城) 7中
- (2位・3位の決定は、遠近法による)

##### 遠的の部

- 1位 一ノ瀬歩夢(西の京) 7中
- 2位 吉村勇人(奈良高専) 7中
- 3位 堀内大輝(畝傍) 7中

(1位・2位・3位の決定は、射詰競射による)

## 総合の部

- 1位 堀内大輝 (畝傍) 14 中
  - 2位 一ノ瀬歩夢 (西の京) 12 中
  - 3位 石橋和貴 (桜井) 11 中
- (3位の決定は、遠近法による)



男子の部入賞の選手達

## 女子

### 近的の部

- 1位 木村知永 (西の京) 8 中
  - 2位 米田朱里 (橿原) 6 中
  - 3位 植木鈴華 (郡山) 6 中
- (2位・3位の決定は、遠近法による)

### 遠的の部

- 1位 吉田実莉 (平城) 5 中
  - 2位 岡田希海 (登美ヶ丘) 5 中
  - 3位 植木鈴華 (郡山) 5 中
- (1位・2位・3位の決定は、射詰競射による)

## 総合の部

- 1位 木村知永 (西の京) 12 中
- 2位 植木鈴華 (郡山) 11 中
- 3位 吉田実莉 (平城) 10 中



女子の部入賞の選手達

## 奈良県中学校弓道錬成大会

**男子:飯田琢也選手(天理南)、  
女子:牛山未侑選手(大成) が優勝**

今年度の最初の競技会となった平成 30 年度奈良県中学校弓道錬成大会が 5 月 3 日 (木) に橿原公苑弓道場で実施されました。参加人数は男子 64 名、女子 91 名。各 8 射として、その中で個人の順位を決めました。団体は的中合計の上位 4 チームを選びその後トーナメント方式により団体の順位を決めました。結果は次の通りです。

### <個人戦>

#### 男子

- 優勝 飯田琢也 (天理南) 2 位 森馬孝敬 (天理南)
- 3 位 芳村 陸 (天理南)

#### 女子

- 優勝 牛山未侑 (大成) 2 位 山田春奈 (橿原)
- 3 位 高野真由 (橿原)



個人戦入賞者: 左から女子優勝、2 位、3 位 男子優勝、2 位、3 位の選手達

### <団体戦>

#### 男子

- 優勝 天理南中 A (飯田 芳村 清水)
- 2 位 八木中 A (升木、牧野、大塚)
- 3 位 香芝中 A (中川、都留、角田)



男子団体戦入賞者: 前列優勝、後列左から 3 位、2 位の選手達

## 女子

優勝 檀原中A (山田、中村、森田)

2位 檀原中D (赤司、土岐、高野)

3位 大成中A (牛山、木村、沼田)



女子団体戦入賞者： 前列優勝、後列左から2位、3位の選手達

(中体連 中前芳一)

## 編 | 集 | 後 | 記

奈良県が健康寿命日本一を目指す活動の一環として実施している「ならシニア元気フェスタ」の開会式が5月12日に開催され、私も参加してきました。弓道の部の参加者数の多さがひととき目立っていました。最近テレビ番組で、高血圧や腰痛、肩こり対策に良い体操がよく紹介されますが、その動作が弓道の「胴作り、弓構え、打ち起こしの動作」そのものであることに気付きました。

アメリカンフットボールの試合において日本大学の選手による関西学院大学の選手に対する危険行為が問題となり、指導者の資質が問われています。全日本弓道連盟のホームページに「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」が掲載されており、「スポーツにおける暴力行為は、人間の尊厳を否定し、指導者とスポーツを行う者、スポーツを行う者相互の信頼関係を根こそぎ崩壊させ、スポーツそのものの存立を否定する、誠に恥ずべき行為である。」と述べられています。私達も今回の事件を他山の石とし、今一度この宣言の趣旨を理解したいものです。

編集担当 野尻賢司